

岸田外務大臣によるフィリピン・メディアへの寄稿文

(報道振り：仮訳)

●「フィリピンとの“特別な友情の絆”に思いを馳せて」

(1月10日付フィリピン・スター紙、マニラ・ブレティン紙及びフィリピン・デイリー・インクワイアラー紙に掲載)

フィリピンの皆様、新年おめでとうございます。日本国外務大臣の岸田文雄です。まず、昨年12月、ミンダナオ島を襲った台風パブロにより、多大なる被害が発生したことに深甚なるお見舞いを申し上げます。

日本は、長い友好の歴史と特別な友情の絆で結ばれているフィリピンとの関係強化を重視しています。私は、外務大臣就任後の最初の訪問国として、フィリピンを選びました。この度、2008年7月に科学技術担当大臣として訪問して以来、約4年半ぶりにマニラを訪問できることをうれしく思います。本年は日・ASEAN友好協力40周年という記念すべき年に当たります。外務大臣として最初にフィリピンの地を踏むことは、ASEAN諸国との関係強化を重視する私の大いなる喜びとするところです。

今、アジア太平洋地域の戦略環境は、大きく変化し続けています。この中で、日本は、地域の責任ある民主主義国(democracy)として、アジア太平洋地域の安定と繁栄に積極的な役割を果たしていきます。そのために日米同盟を一層強化し、自由と民主主義そして市場経済体制の下で発展を続ける近隣諸国との連携を深めていくことが重要であると考えています。特に、「戦略的パートナー」であるフィリピンと共に、安定し繁栄するアジア太平洋地域を構築すべく連携・強化していくことが重要です。「戦略的パートナーシップ」に基づく協力は、既に様々な分野で進展していますが、今後、経済、海洋協力、ミンダナオ和平、自然災害への対応などの分野で、更に協力を深化させていく考えです。

「戦略的パートナーシップ」の柱の一つが経済面での協力であることは言うまでもありません。フィリピンでは近年外国直接投資が増加し、今後も数十年にわたって人口増加が続くと見込まれるなど、経済成長の条件が備わっております。日本はフィリピンにとって最大の貿易・投資国であり、両国の経済関係は非常に緊密です。日本は技術と資本を、フィリピンは優秀な労働力と大きなインフラ需要を有しており、両国の経済は相互補完関係にあります。特に喫緊の課題であるマニラ首都圏のインフラ整備は、民間の活力も活用しながら両国で協力を進める大いに可能性ある分野であると考えます。また、フィリピン人看護師・介護福祉士の献身的な活躍は、日本の病院・介護施設でも広く歓迎されています。

市場主義経済を掲げ、島国として海上交易に依存する日本とフィリピンは、シーレーンの安全確保という戦略的利益を共有しています。海洋分野における協力は、地域の安定と繁栄の確保に共に取り組む「戦略的パートナーシップ」の重点の一つと言えるでしょう。フィリピンは世界一の船員供給国であり、日本商船で働く船員

の約70%がフィリピン人です。遠くソマリア沖の海賊に対する日本の自衛隊による護衛活動は、フィリピン人船員を守ることにもつながっています。また、フィリピン近海における海難救助能力の向上は、フィリピン人のみならず、日本を含む近隣諸国の国民の生命と財産を守ることもあるのです。その意味で、日本はフィリピンの海上保安能力の向上を重視しており、そのための支援と協力を惜しみません。

ミンダナオ和平についても、日本は、地域の安定及び繁栄のために不可欠であるとの認識の下、和平プロセスを積極的に支援してまいりました。2006年には国際監視団（IMT）に開発専門家を派遣するとともに、紛争影響地域への集中的開発支援（J-BIRD：Japan-Bangsamoro Initiatives for Reconstruction and Development）を開始し、2009年には国際コンタクト・グループ（ICG）に参加しました。思い返しますと、J-BIRDの開始は安倍総理が、そしてIMTの派遣は当時外相であった麻生副総理が、共にマニラで発表したものです。

2011年8月、アキノ大統領とモロ・イスラム解放戦線（ MILF ）のムラド議長は、日本で歴史的な初のトップ会談を行いました。私は、昨年10月の「枠組み合意」への署名を心から歓迎し、交渉当事者の努力を称えます。日本はミンダナオ和平達成のため、今後も最大限の支援を継続していく所存です。

2011年3月の東日本大震災に際しては、緊急援助物資の供与や医療支援チームの派遣のほか、アキノ大統領自ら被災地である宮城県石巻市を訪問される等、フィリピンから心温まる支援を頂き、改めて感謝申し上げます。また、福島県白河市の老人ホームで働くフィリピン人介護福祉士候補者たちは、「お年寄りを見捨てることはできない」と被災地に残り、献身的な介護を続けてくれました。このような御恩を我々日本人は決して忘れません。

日本とフィリピンは、多くの自然災害への対処という共通の課題を抱えています。ここで私は、レイテ島オルモック市の Makoto Migita Street を思い起こさずにはいられません。1991年にオルモック市を襲った大洪水により8,000名を超える死者・行方不明者が出た大惨事を記憶されている方も多いでしょう。日本の無償資金協力による洪水対策が実施された結果、2003年に同規模の集中豪雨が発生した際には一人の死者も出ませんでした。市議会がこのプロジェクトの責任者で完成前に亡くなった日本人技術者・右田氏の名前を市の道路に命名して謝意を表したとお聞きし、私は深い感銘を受けました。共に自然災害に立ち向かう「仲間」として、私はフィリピンとの防災協力を引き続き進めていく決意です。

今回のフィリピン訪問に当たり、戦後の日・フィリピン関係の発展に尽くしてこられた多くの先人たちの努力に深く敬意を表するとともに、フィリピン国民の温かい友情に心から感謝の念を申し述べたいと思います。両国国民は、共に未来志向の日・フィリピン関係を育んでいこうではありませんか。私は日本国外務大臣として、真の友人であるフィリピンとの関係強化に全力を尽くしてまいります。

（了）